

国際協力学、修士・博士ゼミナールのシラバス

(指導教員：湊隆幸)

2008年 初版

2014年 改定

【主題と目標】

論文作成のための研究の動機、仮説の立て方、分析手法に関するフレームの構築。テーマの設定は学生自身の興味を第一とし、既成の概念に捉われない物事の考え方を見につけることを目指す。

【内容】

1. 博士/修士とも、週1回程度の個別面談を原則とする。オフィスアワーは、別途連絡する。個別面談の希望は、指定されたカレンダーの説明に従い、学生各自が行う。
2. 博士については、「博士ゼミ」を実施する場合がある。その詳細は、別途連絡を行う。なお、博士ゼミへの修士の参加は、認められれば可とする。博士は、在籍期間1年目の終了時までには、A4で10ページ程度の論文プロポーザルを提出し、内容についての評価を得ること。
3. pptファイルなどにより作成した面談の資料は、指定された個々のDropboxに保存し、学生および指導教員が管理するものとする。
ファイル名：yymmddHxxM(名前)内容.ppt
(yymmddは面談日時、xxは入学年度、MまたはD、
例えば、20140520H26M(鈴木一郎)プロポーザル資料 doc)

【成績評価】

面談における資料の準備状況、議論の内容、研究の進捗状況などを指導教員が総合評価する。成績の評定は、全課程修了時に一括して行うため、それまでは「保留」とする。面談にあたっては、学生は資料等を丁寧に準備し、自分の意見や考えを効果的に伝えられるよう準備すること。

【教科書など】

特になし。

【その他】

- 1) 本シラバスは、ゼミナールのガイダンスを示すものであり、具体的な内容は学生の要望などに応じて変更することがある。
- 2) 単位の履修登録は、可能なものは行って構わない。登録時期の条件等については、学生各自が責任を持つこと。
- 3) 修士および博士論文の最終版は、論文提出と同時に、wordおよびpdf形式でDropboxに保存すること。
- 4) ゼミ室の使用ルールなどを厳守する。